

2023 年度の教育活動に対する学校評価

自己評価 2024 年 3 月 15 日

学校法人博学園 須津幼稚園長

後藤みはる

学校法人博学園 須津幼稚園 学校関係者評価委員長

高田 若之 

- 1 幼稚園の教育目標 『げんきな子 がんばる子』
- 2 本年度の重点目標 「日々のエピソードから子どもの心を読み取る」
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

2024 年 3 月 27 日

(※評価点は、A(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)の数値で示すこと。)

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善	評価点	意見
計 保 画 育	幼保連携型認定こども園として0歳児から就学前までの乳幼児の成長を見通した計画がなされていたか	A	5月から新型コロナウイルスが5類となり、ほぼ以前の生活に戻りました。行事も以前のように行うことができました。学年毎の交流も行われ、特に12月のお店屋さんごっこでは、準備から当日まで子どもたちが主体的に取り組み、全園児が楽しむことができました。例年と違い、運動会を6月に親子遠足を11月に行ったが、年間の保育計画の中で無理なくできたことがよかった。	B	行事の時期や内容は検証が必要があると思われる。今年、運動会と親子遠足の時期が変更されましたが、このことが園児の生活にやり良いものとなったことは、評価できます。
指 導 の 在 り 方	一人ひとりの心に寄り添うかかわりができたか。	A	日々のエピソードを記録したことで、一人一人の心の動きに気付くことが多くなった。心に寄り添うことがよりできるようになった。	A	エピソードを記録することで子どもの姿への気づきが増えてきたことは評価します。
	集団生活の中でお互いに刺激を受けることで心が育っていく過程を見守ることができたか。	B	日々のエピソードに、友だちとの関わりの姿もよくとらえられていた。行事に向かって練習を積み重ねていく中で、友達と思いを共有したり、協力したり、自分と違う考えを知ったりすることが心の成長の栄養となっていることを再認識した。	A	園児が友達との様々な活動や行動を通して成長していく姿が見られたと思います。集団生活の中で育てるもの大切にしてほしい。
研 修	教師の資質向上の為に園内研修を企画したり、園外の研修会に参加する機会を確保していたか	B	子ども一人一人のエピソードを記録し、2か月に1度学年の先生が集まって話し合いをする園内研修を1年間行った。特に若い先生にとっては子ども、子どもの姿からの気づきを意識することができ、勉強になったようだ。もう一步深く考察できるようになることが望まれる。来年度も日々の日誌にエピソードを記録することとなった。	B	エピソードを記録することが保育教諭の資質向上に向けたことは評価できる。子どもの心や成長にかかわる事として考察できる力をつけてほしい。
支 子 援 育 て	子育て支援の為に未就園児親子への親子教室をゆり組で年間9回開催した。	A	主幹と保育教諭がわらべうたベビーマッサージのインストラクターの資格を取り、0・1歳児の親子教室をより充実させた。来年度は、より充実できるように、年齢でグループを分け、栄養士による離乳食講座も含めていくことを計画している。	A	子育てに力を出す親子が多い昨今、子育てのヒントや助けになり、子育てを楽しめるように保護者を支援することは今後も続けてほしい。